

式 辞

春の暖かい日差しとともに、周囲の四ツ池や姫商五山にも春の息吹が感じられるこの佳き日に、兵庫県立姫路商業高等学校第 66 回入学式を挙行できますことは、我々教職員にとりまして大きな喜びでございます。

本日は、多くのご来賓の皆さまにご臨席を賜りました。平素からのご理解とご協力に心より感謝申し上げますとともに、本日の入学式に華を添えていただき、厚く御礼申し上げます。

さて、ただ今入学を許可いたしました新入生の皆さん。姫路商業高等学校へのご入学、誠におめでとうございます。

今日、皆さんは「高校生になる」という段階を越え、「社会へ向かって学ぶ人になる」という新しい一步を踏み出しました。

この入学式は、大切な通過点であると同時に、皆さんの人生の姿勢を定める大切な出発の日です。その出発の日に、ぜひ心に留めてほしいことがあります。それは、人は、知識の量ではなく、その知識を「何のために」「誰のために」使うかによって成長するということです。知識や技能は、もちろん大切です。

しかし、それだけでは社会を動かす存在にはなれません。必要なのは、自分の学びを社会と結びつけて考える力、正解のない問いに向き合う勇氣、そして、他者と共に価値を生み出そうとする姿勢です。姫商は、その力を育てる学校です。

皆さんが歩み始めるこれからの社会は、AI やデジタル技術が進み、働き方や価値観が静かに、しかし確実に変わり続ける時代です。そんな中で、ピーター・ドラッカーはこう語っています。「未来を予測する最良の方法は、未来を創ることである。」未来は、待つものではありません。誰かが用意してくれるものでもありません。皆さん自身が考え、選び、行動することで、未来は形づくられます。

就職率は 100%。国公立大学進学をはじめ、さまざまな道が、ここ姫商にはあります。授業、PBL 型学習、学校行事、生徒会、企業や地域との連携そのすべては、「自分の学びを、自分の外へ向ける練習」です。失敗してもかまいません。うまくいなくてもかまいません。大切なのは、学びを止めないことです。

ここで、保護者等の皆さまに、改めてご挨拶を申し上げます。本日は、お子さまのご入学、誠におめでとうございます。

今日ここに座るお子さまの姿は、これまでの日々を共に生き抜いてこられた、

その歩みの結晶です。

手を引いて歩いた日も、言葉をのみ込み、ただ信じて待たれた時間も、すべてが、この一日につながっています。子どもと共に過ごせる時間は、決して長くありません。

だからこそ、この高校入学という節目は、保護者の皆さまにとっても、かけがえのない瞬間です。その大切なお子さまを、本日から、私たちは大切な姫商生として、そして、この姫商を大切にしていまいります。どうか保護者の皆さまには、「結果」ではなく、「姿勢」を、「成功」だけでなく、「挑戦」を、見守っていただければと願っています。

新入生の皆さん。本校は、116年の歴史と伝統と共に、様々なことに挑戦する学校です。授業に加え高度な資格取得、部活動は全国大会に数多く出場しています。同時に様々な体験・実践活動を大切にしています。生徒480人が姫路で行ったイベント型販売実習や、FMGenkiでの本校の番組ができたり、企業から課題をいただいて解決型の学習を行ったり、国際インターンシップを行ったり、様々な活動は、企業や卒業生やPTAの皆さんからのご理解とご支援があり、実践できています。

ここ姫路商業高等学校で皆さん一人ひとりが、自分の強みを見つけ、誰かのためにそれを使えるようになること。自分の未来を創り上げていくこと。一日一日を大切に、そして、3年後、姫商にきて良かったと思える日を迎えられること。それこそが、私たちの願いです。ともに充実した日々を過ごしてまいりましょう。今日という日の決意が、

迷ったときの支えとなり、

立ち止まったときの灯となりますように。

新入生の皆さんの未来に、限りない可能性がひらかれていくことを信じ、

あらためて、今、君たちに贈る熱き言葉

心から「入学おめでとう！」

最後になりますが、ここにおられる皆様の、これからのご健勝を祈念いたしまして、式辞といたします。

令和8年4月8日

兵庫県立姫路商業高等学校長

米 谷 繁